

国際会議から

Railway Engineering 2013

本会議は、鉄道分野全般に関する国際会議であり、今回で12回目の開催となります。欧州諸国からの参加者が多く、90件余りの口頭発表と14件の一般展示がありました。

口頭発表のセッションには、高速鉄道、車輪・レール間の接触、騒音、レール、軌道管理などがあり、メーカーや大学からの発表が多く見られました。筆者は、ロングレールが介在する分岐器の座屈強さの評価について、15分程度の口頭発表を行いました。

発表はインペリアルカレッジロンドンの講義室で行われ、1室あたり30～50名程の聴講者がいました。いずれのセッションも積極的な討論が行われ、参加者の研究意欲と熱意が感じられました。また、発表会場に併設された展示会場や休憩所でも、参加者同士が交流する姿が見られました。鉄道総研を知る参加者も多く、筆者に日本語で話しかけて下さる方もいました。



発表会場



ロンドン地下鉄



玉川新悟
軌道技術研究部
軌道構造研究室
研究員

ロンドン地下鉄に乗る機会もあり、世界的にも珍しい第4軌条方式を見学し、噂に聞く車内停電も体験しました。

本渡航は、国際会議での口頭発表に加え、海外の研究者との交流を図る貴重な機会となりました。次回は2015年に開催される予定です。

正式名称：Railway Engineering 2013
開催国：イギリス(ロンドン)
期 間：2013/7/10～11
主 催：The University of Edinburgh
開催頻度：1～2年に1回、12回目
次回開催予定：2015年、イギリス
ホームページURL：<http://www.railwayengineering.com/>